

Akatake Times

Vol. 2
(通算 第155号)

まだまだ暑い日が続きますが皆さん体調管理は大丈夫ですか？
44期がスタートしました。
今期も社員一丸となり前向きな気持ちで頑張っていきましょう。



『 天空の里 』

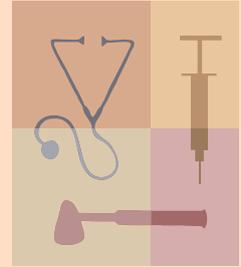
『今月の表紙』

人がすれ違うことも大変な狭い山道を歩くこと20分、やっとビューポイントに到着。
ここは信州遠山郷 下栗の里。
「日本のチロル」とも言われています。
谷底に向かって標高800m～1100mの間に耕地や民家が点在します。
こんなところでも生活している人々の力強さを感じました。
近くの御池山には、日本初の隕石クレーターもあります。



撮影日時: 2014年7月26日 撮影場所: 長野県飯田市上村下栗 撮影と文: 小針さん

第44期 大いに变化しよう！



秋の気配が漂うこの頃です。過ごしやすい季節がもうすぐそこまで来ています。間違いなく訪れる季節の変わり目に、我が社も新しいスタート第44期を迎えます。前期43期は、二人の同志を喪ったことや、病気で倒れた社員がいたり健康の大切さを痛感した1年間でした。

経営の方も発病気味で、加療が必要であります。切開、摘出、移植、投薬、輸血、荒療法、毎日検診、栄養、リハビリ等々によって1年かけて健康体にしていかなければなりません。我が社のスローガン“意識を変え！やり方を変え！業績を変えよう！”の意識を高め愚鈍に実行していくことが薬でもあり栄養剤でもありましょう。

ドラッカー曰く、『イノベーションとは、自らの内面、すなわち物の見方だとか考え方だとか生き方などを改めることである』と言い、そのためには『自分が自分を知ることにより自分は他人を理解することができ、それゆえ他人も自分を理解してくれる』、『自分が自分を知らないことに気が付くことから始めよ』とも言っています。

意識とやり方が先週と比べ、1ヶ月前と比べ、1年前とくらべどう変わったのかは大事なことで、変わっていないことは“退化”していると等しく、“対価”は下がってもおかしくないということです。第44期は、掲げた経営計画を達成し、良い会社づくりの新たな一歩としたいものです。

今回は、活況を浴びている東南アジアの情報を紹介します。

我社は海外に生産拠点、営業拠点をとる事業方針を持っていませんが、折々に海外情報を得ておきたいことから、私は『アジアビジネス探求セミナー』なる勉強会に時々参加しています。そのセミナーが報告しているレポートを以下に紹介しておきます。

【アジアを覗けば日本が見える今月の驚き報告（2014年5月 ミャンマー編）】

- ① 2年ぶりのミャンマーだが景色は一変している。食堂に入るとお坊さんが税務署の徴税のごとく托鉢をしていた。今回はこの托鉢は1回だけであった。昨年から報道の自由化で新聞がなんと100紙も出ている。しかし、一面トップがアウンサン・スーチさんは2紙のみであった。
- ② これは、何も僧侶への尊厳が薄くなった訳でも、アウンサン・スーチさんの人気落ちた訳ではない。豊かになり価値観が多様化したのだ。それだけこの2年近代化が進んだのである。
- ③ 一番驚いたのが不動産価格、日本人向けの賃貸住宅、1DK月16万円、3LDK月25万円、4LDK月40万円と東京を軽く抜いている。しかも、これが家賃を1年前払いで、返還なしである。
- ④ ミャンマーの投資政策が実質的にそんなに大きく改善している訳ではない。しかし、投資ブームはすさまじく、中国、タイ、韓国、米国などの企業を中心に活動している。日本も正式認可件数は、2012年は11件、2013年は43件とまだ多くはない。
- ⑤ しかし、日本人がただ手をこまねいていただけではない。日本食レストラン、ホテル、コンサルタント、中古車販売、縫製と現地のミャンマー人の名義を借りたビジネスは百花繚乱の感がある。日本食レストランは、一昨年は20店、現在はヤンゴン市内に130店もある。まだ、大手企業は正規手続きにこだわるが、工夫力がある中小企業や個人は躍動的である。ヤンゴンに滞在する日本人が1000人、バンコク→ホーチミン→ヤンゴンの日本人集積ルートが出来そうである。
- ⑥ ミャンマー人は語学のレベルが並ではない。私が取材したほとんどの企業の方が、英語と日本語が話せる。タクシーは90%英語で大丈夫である。街の食堂に行くとどこでも子供が店員をしている。まだ、児童が仕事をするのは普通のことである。
- ⑦ しかし、夜ともなるとどこでも寺小屋のような施設がある。なかには行く所がないのか、3歳ぐらいの子供もいる。それが9時、10時頃までやっている。街、街に広がるボランティアの草の根の教育施設の存在が大きい。



※ミャンマー = 旧ビルマ

このレポートとは関係ないが、ミャンマーに進出・投資することを視野に入れミャンマーを視察する日本人が結構いるようです。ミャンマー関係者はその対応のために多くの時間と費用を使う訳ですが、結果として以下のようなことが多く、「日本人はお断り！」と言われかねない心配もあるようです。

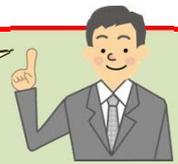
- ミャンマー4L : Look, Listen, Learn, Leave (見て、聞いて、学んで、去ってしまう)
- ミャンマーNATO: No Action Talking Only (話すだけで何もしない)

それでは、ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀



今回は、ISO9001/14001導入の経緯について見ていきましょう。



当社がISO9001を取得したのは2000年のこと。もう14年も前になります。今でこそ取得して当たり前の認証ですが、当時はそれほど取得している企業も多くなく、全国的に見ても比較的早めに取得に動き出したと言えるでしょう。取得に踏み切った理由はいくつかあったでしょうが、社内では当時「ISOを取得すれば客先立会がなくなる」という噂が信じられていたようです。今では一笑に付されてしまいそうな話ですが、全国的に見てもまだまだ取得数が少なかった当時はそれだけの付加価値を持った認証と位置付けられていた訳ですね。取得にあたっては、当時の品質保証部長を中心に文書や体制の整備を進めていきました。また認証審査は、「日本検査コンサルタント株式会社(nic)」殿にて行っていただきました。

その約3年後、今度はISO14001の取得に動き出しました。環境やエコについて配慮は年々必要性を増す一方であり、取得は必然的な流れだったと言えます。取得にあたっては、総務部長を中心に準備を進めていきました。認証審査は、株式会社経営総合の中村先生の薦めもあり、「新日本認証サービス株式会社」殿にて行っていただき、2003年9月17日付で認証となりました。



さらにその3年後、ISO9001の認証審査を「新日本認証サービス株式会社」殿に移行しました。前審査会社が認証資格を停止になったことが大きな理由ですが、ISO14001の審査・認証と統合できるメリットもあり、移行に至ったものです。こちらは2006年5月10日付で認証となり、それ以降はISO9001とISO14001の審査が同時に行えるようになりました。

そして現在、ISO委員を中心に、また皆様の協力を得ながら、毎年9～10月頃に定期的に行われる維持審査と、3年毎に行われる更新審査を受け、認証を継続しております。

竹の子会 ビアガーデン in ニューウェルサンピア沼津

実施日 2014/08/29

昨年好評だったビアガーデンが今年も開催されました。参加人数は去年より減ってしまいましたが、とても楽しく、夏を感じることができました！！



皆様お疲れ様でした！！